2024年びわこ国体主会場に期待する
スタジアムレガシー

谷本　岳史（競技スポーツ学科　スポーツビジネスコース）
指導教員　吉田　政幸

キーワード：レガシー，スタジアム，2024年びわこ国体

1.　緒言

レガシー(遺産)とは多様な概念である.レガシーを長期的に根付かせるためには誘致や計画の段階から利害関係者の意見を聞き,期待を反映させることが重要である（荒牧，2013）.本研究は，2024 年びわこ国体の開催により建設されるスタジアムに対し,国体の利害関係者がどのようなレガシーを期待するのかを明らかにすることを目的とした.

2.　研究方法

調査対象者は2024年びわこ国体主会場の利害関係者である行政,競技者・団体,地域住民・団体の合計9名であった.2015年8月18日から11月12日に二者対面式およびグループインタビューによる半構造化インタビューを実施した.分析はインタビュー結果を切片化し，類似した単語をまとめ，キーワード化した.

3.　結果と考察

図 1 は本研究のスタジアムレガシーの類型である.スタジアム自体の有形のレガシーは多目的に使用できる整備やスタジアムのデザインなど7つがキーワードとして特定された.スタジアム自体の無形のレガシーはスタジアムが彦根市の観光都市としてのシンボルとなることや,彦根城と調和したスタジアムになることの2つがキーワードとして特定された.スタジアム周辺の有形のレガシーは競技人口の増加や，彦根市の他のスポーツ施設の整備など8つのキーワードが特定された.スタジアム周辺の無形のレガシーは競技に取り組む意識の向上や彦根市のイメージ向上など 6 つがキーワードとして特定された.利害関係者にとってスタジアムレガシーとは,スタジアムでの活動だけでなく，市のイメージ向上，地域活性化のための社会貢献活動など,スタジアム周辺の活動や,国体開催後の町づくりへの期待を多く抱いていることが結果より明らかになった.

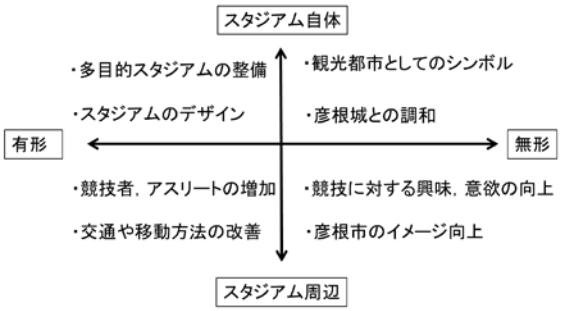

図 1 スタジアムレガシーの類型

4.　結論

本研究では,国体の利害関係者は建設されるスタジアムや国体の開催,誘致におけるレガシー対してどのような期待をするのかを明らかにした.本研究が，スタジアムレガシーの理解を深める基礎的資料となり,今後特に国体を開催,誘致する都道府県の一助となることに期待したい.

引用参考文献

荒牧亜衣（2013）第 30 回オリンピック競技大会招致関連資料からみるオリンピック・レガシー，体育学研究，58，(1)；1-17.